

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

市町村名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度にお ける取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数 値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
06401小国町	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	・少子高齢化や地域とのつながりが希薄化している中で、学校のみならず、家庭や地域住民等が相互に連携・協働して、地域全体で子ども達を育てていくことが課題である。 ・現在協力していただいている地域住民によるボランティアの人材が固定化されている傾向にある。	町民総がかりの教育展開のもと、地域にねざした学校づくりをさらに推進するため、PTA活動と地域学校協働活動の融合をテーマとした研修会を学校運営協議会、PTA、教師向けに開催し、白い森子ども応援隊の一員としてのPTA活動の推進について、より一層の理解を得ると共に参画を促す。	学校パートナー、放課後子ども教室ボランティア、白い森学習支援センター関係ボランティアなどに加え、小国町PTA連絡協議会との連携もさらに深め、地域学校協働活動として、白い森子ども応援隊への保護者の理解と参画を一層推進しながら活動を実施する。このことにより、子どもたちの自発的意識が育っていることから、さらに活動を定着化させ、意識向上の継続を目指す。	地域がまるごと子ども育成サポーターとなる白い森子ども応援隊への理解と参画が進み、新規ボランティア人材が増えることで、多様な分野で得意とする講座等の先生が誕生し、地域に溶け込んだ活動の中で児童生徒との協働活動により、多様な支援活動として輪が広がっていく。	・新たな学校支援ボランティアの人数を増やす取組みの中で、子ども達と協働で行う「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う児童生徒の割合」(全国学力学習状況調査における児童生徒質問紙より)	75.5	%	78.0	84.0	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けた大きな成果が見られた。 ・広くPTAや教職員も巻き込んだ合同学校運営協議会研修会の実施により、地域学校協働活動への理解が一層深まった。 ・PTA活動と地域学校協働活動の融合を意識したことにより、各種活動への参加を促し、このような動きが児童生徒へも影響したことにより目標達成につながったものとする。 ・今後も学校パートナー活動等地域学校協働活動とPTA活動の融合を図りながら、保護者を巻き込んだ地域づくりを進めていくことが必要であり、同時に課題でもある。 ・親の姿から学ぶことによる児童生徒の社会貢献感情の醸成を図りたい。

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。